

科目名	組織マネジメント/組織行動論 Organization Theory/ Organizational Behavior		選択	2 単位
学期・曜日・時限	秋・金・4 限	秋・金・5 限	-	-
担当教員名	平松 庸一	e-mail		
<p><b>&lt;講義の概要と目的&gt;</b></p> <p>現代は組織の時代と言われています。私たちが生活を十全に営もうとすればするほど、組織に対する理解が必須となっています。現代社会の到るところに組織があり、そこから生み出されるモノやサービスを通じて私たちの生活は営まれています。本講義では、現代的文脈（技術の高度化と環境の多様化・複雑化等）のなかにおける組織とそこにおける人間の行動を探求します。本講義では、学的知識と実践知の融合を通じて、組織に起因するさまざまな人間行動の問題を具現化し、より広い文脈からのプロデュース力の習得を目指します。</p> <p><b>&lt;到達目標&gt;</b></p> <p>人的資源管理やリーダーシップ論に関連する組織現象に対して、自分なりに論理的かつ多様な角度から分析し解釈できるようになる。</p> <p><b>&lt;アクティブ・ラーニング要素&gt;</b></p> <p>受講生の皆さまが抱えておられる問題を各回講義テーマに照らし合わせ紹介していただき、この解決にむけてファシリテーションやディベート方法論を適用して、受講生皆で取り組む。</p> <p><b>&lt;講義計画&gt;</b></p> <p><b>1 回目：講義概要（講義のねらい、テキスト、評価方法等）、本講義の進め方（講義形式、ファシリテーション&amp;ディベート）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要点：組織マネジメントの概観：組織の理論を簡単に紹介します。</li> </ul> <p><b>2 回目：組織の定義と組織の生存条件</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要点：Barnard の公式組織を学びます。さらに、組織均衡の理論を学び、組織の生存条件を確認します。その後、さまざまな組織を事例にディスカッションします。</li> </ul> <p><b>3 回目：職務設計</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要点：科学的管理法から現在にいたるまでの職務設計の変遷を学びます。</li> </ul> <p><b>4 回目：組織デザイン</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要点：組織形態の基本型からさまざまな組織デザインの有効性、組織における分業の様々なタイプとそのメリット、デメリットを学びます。</li> </ul> <p><b>5 回目：課題に対する受講生によるプレゼンテーション</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要点：事前に、発表課題を提示します。各自パワーポイントを作成し提出してもらいます。提出期日は、受講生の皆様と相談のうえ、決定する予定です。</li> </ul> <p><b>6 回目：組織行動論の要点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要点：組織の中の人間行動をミクロとマクロの両視点から概観します。</li> </ul> <p><b>7 回目：モチベーション理論（1）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要点：初期のモチベーション理論を講義し、多様な視点へと展開しつつディスカッションします。</li> </ul> <p><b>8 回目：モチベーション理論（2）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要点：現代のモチベーション理論を講義し、多様な視点へと展開しつつディスカッションします。</li> </ul>				

### 9 回目：パーソナリティ理論

・要点：特定のパーソナリティ特性と職務上の業績の関係性や感情についての問題を取り上げて講義します。

### 10 回目：組織コミットメント

・要点：組織への求心力を3つの次元から学び、成果変数としての有効性を講義します。

### 11 回目：ストレスとバーンアウト

・要点：現代の労働環境はストレスフルであると言われます。どのようにすればストレスは抑制され、あるいは解放され得るのかを実証知見を踏まえつつディスカッションします。さらにバーンアウトという現象を検討します。

### 12 回目：組織化理論と学習する組織

・要点：組織理論への新しい潮流としての社会構成主義を踏まえつつ、Karl E. Weick の組織化理論と Senge, P. M. の学習する組織や Schamer, C. O. の U 理論の可能性をディスカッションします。

### 13 回目：組織を動かす見えない力

・要点：組織に作用する見えない力を制度と文化の視点から講義します。

### 14 回目：社会科学の言語論的展開

・要点：ますます複雑化する組織現象への新視座としての組織ディスコース研究を紹介し、さらにその可能性をディスカッションします。

### 15 回目：課題に対する受講生によるプレゼンテーション

・要点：事前に、発表課題を提示します。各自最終レポートとパワーポイントを作成し提出してもらいます。提出期日は、受講生の皆様と相談のうえ、決定する予定です。

#### <講義の進め方>

講義形式と討議形式（ファシリテーション&ディベート）の両方を取り入れ、可能な限り受講生との双方向なコラボレーションを追求したいと考えています。毎回時間配分は、60 分の講義と 30 分の討議を目安に進める予定です。

#### <事前事後学習内容>

該当講義日の5日前を目安に SNS 上にアップロードされたテキスト or 資料をしっかりと予習してください。第8週目と第15週目には、受講生によるプレゼンテーション（受講生が多数の場合は、優秀者を選定）を予定しているので、日頃から10分程度で日本語による報告が出来るようにスキル向上に励んでください。

#### <予習・復習時間>

各回の予習・復習にはそれぞれ2時間相当かかると想定され、詳細については講義時に指示します。予習での疑問に対して受講後どのような解決案を得たのかを毎回出席カード裏面に記載して下さい。

#### <教科書及び教材>

講義資料（テキスト&プレゼン資料）は、学内 SNS に該当講義の5日前を目安にアップする予定です。適宜各自の必要に応じてダウンロードして使用してください。

#### <参考書>

桑田耕太郎・田尾雅夫著『組織論（補訂版）』有斐閣アルマ, 2010.

Stephen, R. (2005), Essetials of Organizational Behavior, 8th Ed. (高木晴夫訳『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社, 2009)

<成績評価方法>

欠席 6 回以上は成績評価しない。

講義貢献：プレゼンテーション（or パワーポイント資料）：最終レポート＝3:3:4 とします。

<課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法>

選出された優秀者複数人に報告していただき、これに講師からコメントを付加する方法論にて課題への採点基準及び重要論点等を受講生へ明示する。

<履修条件>

特になし。

<DVD による視聴> 可

<オフィスアワー>

e-mail で連絡すること。

<その他>

特になし。